

※注射生ワクチンは「水色」、経口生ワクチンは「だいたい色」、不活化ワクチンは「黄色」で各表の「種類」欄を色分けしています。予防接種スケジュール作成の参考にしてください。

定期接種	種類	望ましい接種年齢	対象年齢	回数及び間隔	説明
	B型肝炎	2か月～9か月未満	1歳未満	3回(27日以上の間隔を置いて2回。さらに、1回自終了から139日(20週)以上の間隔で1回)	B型肝炎ウイルスの感染を予防。ワクチンを接種することで、体内にB型肝炎ウイルスの抵抗力(免疫)ができる。免疫ができることで、一過性の肝炎を予防できるだけでなく、キャリアになることを予防でき、周囲の人への感染も防ぐことが出来る。(母子感染予防の対象者は定期接種対象外。)
	ヒブ(Hib)	2か月～7か月未満で接種開始	2か月～5歳未満	初回 3回(27日～56日の間に接種) 追加 1回(初回終了から7～13か月) ※望ましい時期で開始した場合	肺炎・敗血症・髄膜炎などの予防。1歳代での発病が過半数を占める。接種開始の時期により接種回数異なるので注意。
	肺炎球菌(13価)	2か月～7か月未満で接種開始	2か月～5歳未満	初回 3回(27日以上おく) 追加 1回(1歳以上初回終了後60日以上おく) ※望ましい時期で開始した場合	中耳炎・肺炎・髄膜炎などの予防。出来るだけ適正な時期に接種する。接種開始の時期により接種回数異なるので注意。
	ロタ	8週～15週未満で接種開始	1価 6週～24週0日まで 5価 6週～32週0日まで	1価 2回(27日以上おく) 5価 3回(27日以上おく)	ロタウイルス胃腸炎を予防。ワクチンは2種類あり、どちらも口から飲む。効果や安全性に差はないが接種回数異なる。途中からワクチンの種類を変えることはできない。
	四種混合DPT-IPV	初回 3か月～1歳未満 追加 1歳半～2歳半	3か月～7歳半未満	初回 3回(20日～56日の間に接種) 追加 1回(初回終了から1年～1年半後)	ジフテリア・百日せき・破傷風・ポリオ(小児マヒ)を予防。(平成24年11月から実施)以前は、三種混合とポリオで実施しており、同等の効果がある。
	BCG(結核)	5か月～8か月未満	1歳未満	1回	結核を予防。スタンプ方式の注射。肩とひじの間の中央に2か所接種する。
	水痘	1歳～3歳未満	1歳～3歳未満	2回(6～12か月後)	水痘(水ぼうそう)を予防。水痘患者に接触した場合、3日以内に接種すれば発症予防が可能とされている。
	MR混合	第1期 1歳～1歳3か月未満 第2期 小学校就学前の1年間	第1期 1歳～2歳未満 小学校就学前の1年間(年長時)	第1期 1回 第2期 1回	麻疹(はしか)風しん(3日はしか)を予防。乳幼児期に2回接種する。接種できるようになったら、すぐに接種する。麻疹または風しんにかかった場合でもMR混合ワクチンを接種してもよい。
	日本脳炎[第1期]	初回 3歳～4歳未満 追加 4歳～5歳未満	6か月～7歳半未満	初回 2回(6日～28日の間) 追加 1回(初回終了から1年後)	日本脳炎を予防。接種動差し控えにより接種機会を逃した方(平成7年4月2日～平成19年4月1日生まれ)は、特例措置として当面の間、20歳になる前まで接種できる。また、平成19年4月2日～平成21年10月1日生まれの方は、2期(9歳～13歳未満)の期間中に1期の未実施分を接種可。
	日本脳炎[第2期]	小学4年生	9歳～13歳未満	1回	乳幼児期に実施した日本脳炎の追加接種(第2期)にあたるもの。9歳以上であり、接種動差し控えにより接種機会を逃した方は、特例措置として、当面の間、20歳になる前まで接種できる。
	二種混合DT	小学6年生	11歳～13歳未満	1回	乳幼児期に実施した三種混合の追加接種(第2期)にあたるもの。ジフテリア・破傷風を予防。
	ヒトパピローマウイルス(HPV)ワクチン	中学1年生	小学6年生～高校1年生	3回	ヒトパピローマウイルスによる子宮頸がんの予防をするワクチン。接種間隔は、ワクチンによって異なる。ただし、子宮頸がんを完全に予防できるものではないため、検診を行うことが重要。※平成25年6月14日から積極的勧奨の差し控え中
	インフルエンザ	—	65歳以上 60～64歳の一部の方(※)	1回	免疫がつくまでには接種後3～4週間程度かかるため、12月中旬までの接種が望ましい。※60～64歳で心臓・腎臓・呼吸器・免疫不全の身体障害者手帳1級の認定を受けている方
	肺炎球菌(23価)	—	65歳以上の対象者 60～64歳の一部の方(※)	1回	肺炎の重症化の予防。対象者には個別に通知します。※60～64歳で心臓・腎臓・呼吸器・免疫不全の身体障害者手帳1級の認定を受けている方
風しん(成人男性)	—	昭和37年4月2日から昭和54年4月1日までの間に生まれた男性	抗体検査を受検し、結果が陰性だった方に予防接種を実施	令和3年度末までの間、対象世代の男性は市から送付されたクーポン券を使用し、全国の医療機関や会社の健康診断の際に無料で抗体検査を受検できる。抗体検査結果が陰性だった方は無料で予防接種(原則MR混合ワクチンを使用)を受けることができる。	

任意接種	種類	望ましい接種年齢	対象年齢	回数及び間隔	説明
	インフルエンザ	—	(9月30日の時点で) 1歳以上中学生以下	2回(1歳以上小学生以下) 1回(中学生)	2回接種する場合の間隔は、4週間程度が望ましい(最低でも1週間は空けること)。予診票は前年度に市の助成を受けて接種した方に郵送します。対象年齢でお手元に予診票がない方は、接種前に予診票交付申請をしてください。
	おたふくかぜ	1歳～3歳未満	1歳～5歳未満	1回	おたふくかぜを予防するワクチン。接種した場合の発病予防は90%といわれている。接種後の副作用として、耳下腺の腫れが1%、無菌性髄膜炎が0.03%と報告されている。(自然感染の場合、無菌性髄膜炎の合併が1～10%で、難聴の恐れもあり。)
風しん(妊娠を希望する女性)	—	妊娠を希望する女性 (すでに妊娠中の方は接種できません)	1回	妊娠中の女性が風しんに感染すると、子どもに眼や耳等の障害を含む先天性風しん症候群が生じる可能性があります。自身の接種歴を確認し、必要に応じて予防接種(原則MR混合ワクチンを使用)を検討してください。※茨城県が実施する風しん抗体検査事業を希望する方は、茨城県疾病対策課へお問合せください	

※上記の任意接種は、神栖市で独自に助成をしているワクチンです。

法改正等により助成内容に変更が生じる場合があります。